

生涯ずっと、お囃子を続けていきたい。

諸星 敏夫



上富囃子保存会

さつまいもが縁で伝わったお囃子

「40年前、当時途絶えていた上富のお囃子を復活させるため、友人を誘い師匠の元へ習いにいったことが始めたきっかけです。保存されていたお囃子の道具一式を集め、当時の第一分校の校庭で天王様を初披露しました。」そう語るのは、上富囃子保存会の諸星敏夫さん。当初は自分が楽しむことができればいいと思っていた気持ちですが、月日が流れ歳を重ねるにつれ、お囃子の深み、伝統を残さなければと思うようになってきたそうです。

「保存会では上富小学校のクラブ活動でお囃子を教えています。昨年は16人の児童が参加してくれました。協力し合い、楽しく活動してくれています。」

諸星さんの小学3年生になる孫娘さんは祭りごとが大好きだそうです、その話をしていると思わず笑顔がこぼれます。

「この子はやっぱり私の血を継いでいるんだな、と思いますね。」お囃子への思いとは……「地元に残るお囃子はずっと守っていきたいし、後世に伝えていきたい大切なものです。生涯ずっと、やり続けたいと思っています。」

上富のお囃子

上富の囃子は「王子囃子」と称し、明治年間に東京王子（現在の東京都北区王子）の人によって伝えられました。東京のさつまいもの取引先から招かれて祭り見学にいった上富の人たちは、「上富の村にも、こんなに楽しい娯楽があったら、上富の村の祭りにも囃子の音が響いたら……。」と囃子にあこがれ、ついに王子から師匠を呼んで習ったのが始まりです。まさに上富のお囃子は、さつまいもが取り持つ縁というわけです。現在、上富小学校のクラブ活動でお囃子を指導するなど、後継者育成の熱も高い上富囃子保存会では、中富神明社の元旦祭（1月1日）、多聞院の寅まつり（5月1日）、春・夏の木ノ宮地蔵の祭礼（4月23日・24日、8月23日・24日）、八雲神社（天王様）の祭礼等にも奉納されています。



↑旧島田家住宅前で行われる天王様の祭礼。子どもたちが日ごろの練習を披露する場にもなっている。



梅雨が明けて暑くなるこれからの季節は、昔から疫病が流行しやすい時期でもありました。そこで、村中をお祓いして悪疫を防ぐ夏越の祭りが、旧暦の6月中旬（現在の7月中旬）に各地で行われてきました。この祭礼の1つが「天王様（天王祭）」です。天王様の「天王」とは行疫神とされる「牛頭天王」のことです。牛頭天王を祭神とする全国各地にある八坂神社・八雲神社は天王様と呼ばれることが多く、いつしかその祭礼も天王様と呼ばれるようになりました。三芳町でも竹間沢・藤久保・北永井・上富の各地区に天王様がまつられています。天王様の祭日は同じ町内でも各地区によって異なります。かつて、天王様の祭日は農作業の目安でもありました。それまでに麦の脱穀等を済ませておき、祭日の2、3日間は農休日としました。

今月の特集ではその歴史・伝統を受け継ぐ各地区のお囃子連の皆さんにスポットを当て、その魅力に迫ります。

「お囃子のおはなし」

特集

みよし

三芳町のお囃子

入間地方に伝わる祭囃子の系統の多くが神田囃子の流れをくんでいます。この神田囃子には、旧来のゆっくりとしたテンポの「古囃子」と、幕末から明治にかけて各地で盛んに創作された早いテンポの「新囃子」に分けられます。三芳町に伝わるお囃子は、すべて神田囃子系統です。重松流の創始者「古谷重松」から直接伝習を受けた北永井地区には「新囃子」が伝わっています。町内に伝わるお囃子は、すべて町の無形民俗文化財として指定され、その芸能の保持・向上と後継者の育成に努めています。



↑表紙撮影に協力してくれた清水さんは上富小学校の郷土伝承クラブに所属。イベント時に獅子舞を演じる。